

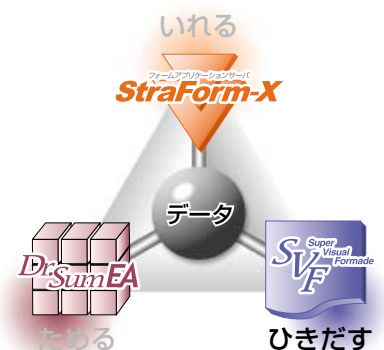
SVF Super Visual Formade

活用事例

近畿コカ・コーラボトリング株式会社様

帳票
一筋

帳票・レポート・ドキュメントの分野で、
システムのデータと業務に合わせたフォームを使い、
より見やすくわかりやすい形にする技術、
それが「フォーム&データ」です。



本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
実際の製品と内容が異なる場合があります。
本カタログに掲載される仕様およびデザインは、予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
掲載内容は2005年8月現在のものです。

ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社 <http://www.wingarc.com/>

[本 社] 〒150-0044 東京都渋谷区円山町 28-5 1st渋谷ビル TEL : 03-5962-73 00(代) FAX : 03-5962-7301
[西日本] 〒541-0054 大阪府大阪市中央区南本町2-6-12 サンマリオンNBFタワー18F TEL : 06-6282-2620 FAX : 06-6282-2622
[中部日本] 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F TEL : 052-218-9520 FAX : 052-218-9521
[開発元] 株式会社エフ・アイ・ティ

一元管理が可能な統合レポーティングシステム「TRS」にSVF/RDEを採用。印刷コストを最大87%削減。

Interview

近畿コカ・コーラボトリング株式会社 「Total Reporting Solution」(TRS)

人々のうれしいと豊かさにつながる機会を創造し、人々の期待感や先進感にこたえ、人々の健康な生活に貢献する「さわやか創造企業」を目指す、近畿コカ・コーラボトリング株式会社。近畿コカ・コーラボトリングでは、より多くのお客さまにさわやかなひとときを提供することを目的に、製造、販売、物流、品質保証など、1本1本の製品を業界ナンバーワンのオペレーションで提供するためのさまざまな取り組みを展開している。その取り組みの一端として、メインフレームシステムのオープン化を実現。一元管理が可能な統合レポーティングシステム「Total Reporting Solution」(TRS)の構築に、SVF/RDEを採用した。

全社帳票システムを、統合的なレポーティングシステムで一元管理

近畿コカ・コーラボトリングがTRSを導入した背景としては、

- ①データや情報の一元化
- ②情報処理のリアル化
- ③全体システムのスリム化
- ④システムの共同化
- ⑤システムのオープン化と標準化

という大きく5つの取り組みを実践していたことが挙げられる。

現在、近畿コカ・コーラボトリングでは、どのシステムから出てくる数字も1つであるという「データや情報の一元化」の原則に基づいて、すべてのシステムが導入されている。例えば、システムAとシステムBの売上高が違っては困るためだ。

また、情報処理のリアル化により、日々の夜間処理や月次処理の時間短縮を実現することで、エンドユーザーに情報を早期に提供し、業務効率を向上するほか、分散されているシステムの統廃合によるスリム化を目指している。

さらに、日本全国のコカ・コーラボトリンググループで、システムの共同開発を推進していくことを目的に、システムのオープン化と標準化を推進。従来、メインフレームにより行っていた基幹系システムをオープンシステムに移行した。

このメインフレームのオープン化に伴い、全社帳票システムの見直しを決定。帳

票システムとなるTRSを実現するための、最適なツールの選定と導入が検討された。

近畿コカ・コーラボトリング 情報システム部 北峯軌明氏は、「一元管理ができる統合的なレポーティングシステムを導入することにより、社内的な効果を創出するのがTRSを構築するに至った最大の目的でした」と話す。

またTRSには、コカ・コーラボトリンググループが推進する「eKO(イー・ケー・オー)」システムの取り組みの一環として、「ペーパーレス化」および「情報セキュリティ管理の基盤作りとなるコンプライアンス」などの効果も見込まれていた。

eKOシステムとは、ザ・コカ・コーラカンパニーが上場しているニューヨーク証券取引所における愛称であるKOと、環境(Environment)の頭文字を組み合わせたもの。ISO14001などを参考にコカ・コーラシステムのために設計された独自の環境マネージメントシステムであり、環境負荷の低減と経営効率の向上を目的に、環境・社会・経済の3つの側面から、水使用量、エネルギー使用量、廃棄物発生量の改善を目指している。

煩雑な帳票の運用管理と大量出力によるコストの肥大化

TRSを導入する以前は、アウトソーシングセンターで運用されているメインフレームから連続帳票が出力され、担当者が本



北峯 軌明氏

近畿コカ・コーラボトリング株式会社
情報システム部

社や支店向けに仕分作業を行い、メール便でそれぞれの仕分先に配布していた。届いた帳票はさらに、本社の担当者が仕分を行い、社内便で関連する拠点に配布しなければならなかった。

また、アウトソーシングセンターからカット紙や連続帳票で直接本社に出力される帳票や、各支店にFAXで配信される帳票など、出力形式が多岐にわたっていることから、運用形態が煩雑になっていた。

さらに紙の出力枚数が膨大であり、それら出力した帳票のセキュリティなども課題として挙げられていた。

一方、コスト面での課題としては、例えば月次帳票だけでも1か月に9万枚の紙の帳票を出力しており、紙のコストや印刷に関わるコストも膨大になっていた。また、システム開発時に独自の帳票プログラムを開発する必要があるために、個々に開発・運用コストが発生するほか、アウトソーシング業務の費用の増大、プリンタの種類が多様多様なためプリンタ維持費が必

近畿コカ・コーラボトリング株式会社

● 近畿コカ・コーラボトリング株式会社プロフィール

本社所在地：大阪府摂津市
 代表者：代表取締役社長 守都正和
 設立：1960年9月
 資本金：109億円（2004年12月31日現在）

従業員数：1369名（2004年12月31日現在：出向者417名含む）
 事業内容：清涼飲料その他飲料の製造および販売など

総売上高：1930億円（2004年度連結）

要以上にかかってしまうなどの問題を抱えていた。

グループ会社との共通化・標準化を視野に、将来性も含めた採用

近畿コカ・コーラボトリングは、オープン化にあたり全社帳票システムを、

①カット紙出力 ②電子帳票 ③連続帳票の分野に分けてシステムを移行している。

まず、カット紙出力システムは、約250帳票を対象に2004年春よりシステム開発をスタート。同年末より既存システムとの並行運用によるテストを実施し、2005年1月より順次本番運用を開始している。

次に電子帳票システムは、主に経理関連の帳票を対象にシステムを開発。2004年末より開発をスタートし、2005年春より既存システムとの並行運用を開始し、2006年初めの本番移行を目指している。

北峯氏は、「経理システムの電子帳票化は、本番移行の3カ月前に税務署に申請をしなければならないことが、電子帳票システムの並行運用が長期にわたる理由です。また、近畿コカ・コーラボトリングでは、1月が会計年度の開始であることから、年度替りからの新システム移行を目指して

います」と言う。

最後に連続帳票は、2005年よりシステム構築をスタート。現在、テスト・検証を行っており、2005年7月より本番稼働する予定だ。「このシステムを皮切りに、そのほかの連続帳票にも順次TRSシステムを拡大していく計画です」と北峯氏は話している。

TRSに、SVFを採用した最大の理由を北峯氏は、「TRSは基幹システムの一部であり、全社的な影響が大きいため、帳票ソリューションはメジャーな会社の製品に限定したいと考えました。メジャー会社の製品にこだわったのは、グループ会社との共通化、標準化も視野に入れていたために、将来性も含めた拡張性を考えたことも理由の1つです」と言う。

北峯氏はまた、「各拠点に帳票を分散出力する場合、ネットワークの負荷の問題を考慮する必要がありました。この問題を考慮する必要がなかったのはウイングアークの帳票ソリューションだけでした。また、専用伝票や連続帳票など、特殊な印刷の要件を満たす必要があるほか、現状の機能をダウンさせることなく拡張、強化できるなど、厳しい現場の要望に対し、最も柔軟に対応できる体制を確立できたのがウ

イングアークの製品でした」と話している。

6万枚の削減、87%のコスト削減効果を見込む

TRS導入後の効果としては、まずシステム全体が非常にシンプルな構成になったこと。TRSでは、業務システムから帳票データがCSVファイルでTRSにわたされ、TRSが仕分処理や帳票生成、スプールを行う。エンドユーザーは、必要な帳票だけをTRSから出力することができる。

北峯氏は、「TRSにより、出したいときに、出したい帳票を、出したいプリンタに、何度でも、何部でも出力できる帳票システムのコアを確立することができました」と話す。

具体的な仕組みとしては、仕分・電子帳票管理の仕組みにインフォコム社のOpenBOSTおよびNEOSSが採用されており、仕分されたCSVデータはUniversal Connext/Xを経由してSVFで作成された帳票イメージと組み合わせられ、Report Director Enterpriseにより印刷スプールに格納されるという仕組みになっている。

また、2006年1月より本番稼働を予定している経理帳票の電子帳票化により期待される効果としては、全月次帳票約9万枚の半分、4万5000枚の用紙が削減可能。これにより用紙代も50%削減できるほか、FAX送信していた帳票の自動プリント出力により、2004年実績と比較して、用紙枚数で6万枚、通信費や用紙代などを含めて87%のコスト削減が見込まれている。

今後、近畿コカ・コーラボトリングでは、連続帳票出力を順次TRSに対応する。また、電子帳票化についてもTRS対応を促進していく計画だ。

